

2017年 編集委員会からの新年の挨拶

明けましておめでとうございます。本年は、世界情勢が今までとは激変する年になると思います。それが好ましいものになることを期待しています。これらを進めるためには科学技術の発展が基礎となるとともに、宇宙技術も希望をもって進められることを期待したいと思います。このような情勢の中で、科学技術のイノベーションを起こす動機は何なのかを探る調査を通してSpace Japan Reviewに貢献していきたいと思っております。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

特別編集顧問 飯田尚志



新年を迎えるにあたり読者の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。又日頃SJRのご愛読感謝致します。昨年は各地の自然災害もさることながら英国のEU離脱方向より始まり米国次期大統領選挙の結果、年末にはイタリアなど欧州各国のEU離れ政権の台頭など政治・経済動向に大きな変化をもたらす兆しが見えてきました。

このような中で推進系を含めオール電子化を目指す新しい通信衛星ETS-9の開発が進められていることは非常災害時の通信技術を含め高度衛星通信の発展に新たな期待が持たれております。

今年も引き続きSJRをご愛読頂きますようお願い致します。

特別編集顧問：北爪 進



昨年は、本誌の活動を通じてたいへんお世話になりました。原稿執筆などのご協力をありがとうございました。宇宙に関わる興味深い話題はもちろんですが、今年は学生さんによる記事も増やしたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

編集委員 高山佳久

あけましておめでとうございます。昨年よりWinter/Spring/Summer/Autumnの年4回の発行に踏み出しました。2017年はNo.95-98を発行する予定です。私たちの生活において科学技術の重要性が増すなかで、本年は宇宙技術が新たな課題解決の手段としてスタートできる年になることを期待しています。Space Japan Reviewではその軌跡が追跡できる話題を提供するとともに、温故知新、歴史的な軌跡を記録に残す活動を進めようと思います。最近の記事でも取り上げていることが多いのでバックナンバーの記事もお読みいただくと幸いです。本年の編集委員会は昨年引き続き、飯田尚志、植田剛夫、北爪 進、福地 一、大幡浩平、門脇 隆、金井 宏、高山佳久、吉野泰造、若菜弘充で活動してまいります。本年も引き続きご支援よろしく申し上げます。

編集委員長 若菜弘充